

校長	教頭	教頭

科目名	ファッションデザイン			教科名	家庭 (生活情報科)
学年	3年	単位数	4単位	担当者氏名	印

1 科目「ファッションデザイン」について

学習の到達目標	ファッションデザインの基礎、発想と表現法などに関する知識と技術を習得させ、ファッションを創造的にデザインする能力と態度を育てる (学習指導要領等を参照)
使用教科書	実教出版社「被服製作」 「ファッションデザイン」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
被服製作を通して、ファッションデザインに対する関心を持ち、役立てようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。	被服製作に関する理論を学習し自ら思考を深め、創意工夫する能力を身に付けている。	被服製作に関する技術を学習し、被服を能率的に製作できるようにする。立体構成に関する技術を習得する。	ファッションデザインの造形的要素である文様、材質感について、ファッションイメージと関わらせて理解する。
具体例 ・出席状況 ・提出物 ・平常の学習活動 ・学習態度 ・自己評価 ・作品類のできばえ 等	・安全作業への留意 ・作業内容における用具類の選択 ・サイズ、デザインに合ったパターンの製図	・被服製作における創意工夫やアイデア	・被服製作における工程の理解 ・技術の応用

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。(例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙)

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名	ファッションデザイン			教科名	家庭(生活情報科)
学年	3年	単位数	4単位	担当者氏名	印

2 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
2	9	1 6	・裏付きスカートの 製作	・裏付きスカ ート製作の方 法を理解す る	・型紙の準備、裁断、印し付けを行う (関・思・技・知) ・裏スカートと表スカートの脇を縫い合わせ方 を学ぶ (関・思・技・知) ・ベルトの付け方を学ぶ ・すそ上げを学ぶ (関・思・技・知)	・行動観察 ・机間指導 ・質疑応答 ・作品制作の取り 組み状況確認	・作品見本 ・レポート 見本
		1 0					
	10	1 1	・ファッション デザインの基礎	・ファッション デザインの 基礎につい て理解する	・ファッションデザインの造形的要素である、 形態、色彩、文様、材質感について学ぶ (関・思・技・知)	・行動観察 ・机間指導 ・質疑応答 ・期末考査 ・作品提出	・配色カード ・布見本
		1 2					
		1 2					
2学期の 評価方法			テスト20%+観点別評価(提出物60%、態度10%、出席10%)とする。 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				

校長	教頭	教頭

科目名	フードデザイン		教科名	家庭（生活情報科）
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名
				印

1 科目「フードデザイン」について

学習の到達目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。
使用教科書	実教出版社「フードデザイン」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
食生活に関する諸問題に関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、食事を総合的にデザインしようとする実践的な態度を身につけている。	食事を総合的にデザインすることを目指して思考を深め、学習した知識と技術を活用して創意工夫する能力を身に付けている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身につけ、食事を総合的に捉えて計画的に計画・実践できる。	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけ、食事の意義と役割や豊かな食事について総合的に理解している。
出席状況、提出物 平常の学習活動、学習態、自己評価、作品のできばえ等	実習の安全確認、作業工程における食器・器具類の選択と使い方、観察力等	献立作成における食品の選択と創意工夫	ペーパーテスト、各献立に合わせた調理工程の理解、技術の応用

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名	フードデザイン		教科名	家庭 (生活情報科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名
				印

校長	教頭	教頭

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
1 学期	4	2	・オリエンテーション	・年間の授業内容説明、評価について、食物検定への取り組み等の学習内容を理解する。	・年間の授業内容を説明しながら、ワークシートに記入させていくとよい。また、授業に組み込む姿勢を教師・生徒間で確認していく。	行動観察 発問や生徒の活動の場面を多くする プリント提出	
	5	8	・消化と吸収	・消化と吸収のしくみを理解する。 ・唾液分泌を促して消化吸収をよくする以外に、運動能力や脳の活性化、発音や審美性にも関する歯の役割を理解する。 ・消化吸収のよい献の条件を考える。 ・排泄のしくみが健康状態と重要な関わりをもつことを理解する。	・消化の作用・過程と消化酵素の働き、食べたものがどんな最終生成物質として吸収されるのかを理解させる。 (関・思・知) ・ガンの予防策としてかぜの働きの重要性を理解させる。 ・必要な栄養素を有効に摂取する食事のとり方を考えさせる。 ・さまざまな器官が正常に機能することにより、摂取した食物の不要分が体外に排出されることを理解させる。 (関・思・知)	学習内容理解の確認テスト 机間指導 質疑応答 プリント提出 学習内容理解の確認テスト	ビデオ ワークシート
	6	8	・栄養所要量と食事計画	・栄養所要量の考慮された理由とその変遷を知り、利用上の留意点について理解する。 ・自分の家族の1日のエネルギー所要量を算出し、実際の摂取量と比較する。 ・各栄養素の所要量を算出または調べ、一覧表を作成する。 ・日常生活活動の種類や強度、活動時間などによる栄養摂取量のあり方を理解し、適切な運動を取り入れる方法を考える	・栄養所要量の必要性を理解させ、エネルギー所要量を算出して献立作成や食物摂取に活用できるようにさせる。 ・栄養所要量の必要性と利用上の留意点について、変遷における具体的なエピソードをあげながら理解させる。 ・算出に必要な条件等は「日本人の栄養所要量」を参照させる。 ・日本人に不足しがちな栄養素と摂りすぎが問題とされる栄養素の栄養所要量及び目標摂取量と各自の現状を比較させる。 ・日本人のほとんどが生活活動強度「軽い」に属することを知らせ、「中等度」レベルにするための具体的な方法について話し合わせる。 (関・思・技・知)	行動観察 発問や生徒の活動の場面を多くする プリント提出 学習内容理解の確認テスト 机間指導 質疑応答 プリント提出 学習内容理解の確認テスト	ワークシート
	7	10	・検定(筆記対策、献立作成)	・食物検定2級を取得する。	・家庭科の正しい知識と技術の徹底を期して各段階の適切な検定を行い、資格や技術を練磨し、技術の向上を図る。 (関・思・技・知)	行動観察 発問や生徒の活動の場面を多くする プリント提出 学習内容理解の確認テスト 机間指導 質疑応答 プリント提出 学習内容理解の確認テスト	
1学期の評価方法			定期考査(60%) + 観点別評価(出欠、ノート提出等) 数量化点(40%) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				

校長	教頭	教頭

科目名	発達と保育		教科名	家庭（生活情報科）
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名
				印

1 科目「課題研究」について

学習の到達目標	乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。 (学習指導要領等を参照)
使用教科書	実教出版社「発達と保育」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
子どもの健全な発達と環境とのかかわりについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的・実践的態度を身に付けている。	子どもの発達の特徴・生活と保育に関する理論を学習し、課題を解決するために自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	子どもの発達の特徴・生活と保育に関する基礎的、基本的な技術を身に付けている。	乳幼児期が人間発達の基礎をつくる最も重要な時期であることをふまえ、基礎的、基本的な知識を総合的に身に付けている。
具体例 ・出席状況 ・平常の学習活動 ・学習態度 ・自己評価 ・ワークシート ・提出物	・ペーパーテスト ・レポート ・ワークシート	・製作物 ・レポート ・ワークシート ・発表表現における 創意工夫やアイデア	・ペーパーテスト ・発表内容 ・レポート内容 ・ワークシート

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

科目名	発達と保育（選択）		教科名	家庭（生活情報科）	
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点)及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
1	4	4	人間としての発達 1) 人間発達のなかの乳幼児	・乳幼児が人間の基礎を培う時期であること、発達観・児童観の変遷について理解する。	・人間発達について詳細に学習するのではなく、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを学ぶ。 (関・思・知) ・子どもと環境の関わり、子どもの発達における親の関与の重要性について学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート ・学習ノート ・学習ノート	沐浴人形 VTR 「さくらんぼ坊や」
	2	2	2) 発達観と保育				
	5	6	発育すること・発達すること 1) 胎児と新生児の発育 2) 乳幼児の発育	・乳幼児期は、特に基本的人間関係の樹立のために「愛着」が必要であることを理解する。	・新生児の生理的特徴について学ぶ。 (関・思・知) ・発育の傾向と特徴、計測による発育の評価について学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート ・中間考査 ・学習ノート	
	6	6	3) 乳幼児の精神発達 4) 人間関係の発達		・新生児の生活に見られる精神活動の芽生えについて学ぶ。 (関・思・知) ・乳幼児期は母親、又は、主たる養育者との間に愛着関係が形成されることがその後の発達の上で重要であることを学ぶ。 (関・思・知) ・発達は大きくとらえると共通性があるが、標準的・平均的な発達の姿は一般的な目安であることや、それぞれ個別的な特徴をもって総合的に発達していくことを学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート ・期末考査	
	7	6	5) 発達の個別性と保育			・学習ノート	
1学期の 評価方法	定期考査（60％）＋観点別評価（出欠、課題提出等）数量化（40％） 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする						

シラバス

科目名	発達と保育（選択）		教科名	家庭（生活情報科）	
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

2 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・（評価の観点）及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
2	9	8	子どもの生活				沐浴人形
			1) 生活と養護	・乳幼児の健全な発育・ 発達を促す生活について 理解する。	・健康管理、栄養と食事、被服、睡眠 排泄、遊び、運動など具体的な例か ら、適切な世話について学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート	
		6	2) 生活習慣の形成		・基本的な生活習慣の形成については、 食事、衣類の着脱、睡眠、排泄、清 潔などを取り扱い、具体的な事例を 通して、乳幼児の発育・発達に即し た適切な習慣形成について学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート ・中間考査	
		4	3) 健康管理と 事故予防		・沐浴実習を行う。(関・思・知) ・社会的な生活習慣については社会的 自立を目指して、人とのかかわりや 社会のルールについて学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート ・期末考査	
			4) 生活と環境	・乳幼児の発達を促すた めの保育の必要性和意 義を理解する	・予防接種には、個人防衛と集団防衛 の二つの意義があること、予防接種 の種類や接種上の留意点について学 ぶ。(関・思・知) ・乳幼児の事故の実態や原因について 考え、事故防止と積極的な安全教育 の必要性について学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート	
		4	ともに生活する		・乳幼児期における大人の働きかけや 環境の影響が重要であること、保育 の適時性について学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート	
			1) 保育の必要性和 意識		・心身の発達に応じた指導方法などを 具体的な例から学ぶ。 (関・思・知)	・学習ノート	
			2) 指導の原理				
2学期の 評価方法	定期考査（60％）＋観点別評価（出欠、課題提出等）数量化（40％） 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする						

シラバス

科目名	発達と保育（選択）		教科名	家庭（生活情報科）
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名 印

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点)及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
3	1	6	ともに生活する 1) 指導の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身につける。 ・家庭保育と集団保育について、それぞれの特徴や役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発達に応じた指導方法などを学ぶ。 (関・思・知) ・乳幼児に対する親の育児制度、家族関係、地域環境などについて考えさせる。 (関・思・知) ・家庭保育については、近年問題とされる子育ての不安、乳幼児への虐待の実態や原因などについて学習し、その予防について考える。 (関・思・知) ・集団保育については、幼稚園と保育園の役割と特徴について学ぶとともに、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げ、集団保育のねらいや保育の指針についても学習する。 (関・思・知) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノート ・学習ノート ・学習ノート ・学期末考査 	
		2	4				
3	4	4	子どもの福祉 1) 児童観の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児が心身ともに健やかに育つための児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ・近年の児童家族福祉の考え方と子育て、家庭への支援に関する試作について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが大人の所有物のように扱われていた時代から、個人として尊重されなければならない考え方へ変わってきた経緯を、思想や法律、国際的な規約などから学ぶ。 (関・思・知) ・児童福祉の理念は単に保護を必要とする児童のみならず、広く世代を担うすべての児童の健全育成が目的とされていることを学ぶ。 (関・思・知) ・児童をとりまく環境の変化に対応し、従来の保護を必要とする児童福祉の考えから、家庭機能の充実と家庭への社会的支援を行おうとする児童家庭福祉へと考え方が広がっていくことを学ぶ。 (関・思・知) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノート ・学習ノート 	
		2) 児童福祉					
		3) 児童家庭福祉					
3学期の 評価方法	定期考査（60％）＋観点別評価（出欠、課題提出等）数量化（40％） 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする						

校長	教頭	教頭

科目名	服飾文化			教科名	家庭 (生活情報科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

1 科目「服飾文化」について

学習の到達目標	被服の基本型と文化、着装などに関する知識と技術を習得させ、服飾文化の伝承と創造を寄与する能力と態度を育てる (学習指導要領等を参照)
使用教科書	実教出版社「被服製作」「服飾文化」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
被服製作を通して、服飾文化に対する関心を持ち、役立てようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。	被服製作に関する理論を学習し自ら思考を深め、創意工夫する能力を身に付けている。	被服製作に関する技術を学習し、被服を能率的に製作できるようにする。平面構成に関する技術を習得する。	服飾の特徴・概要を理解し、服飾文化の特徴を理解する。
具体例 ・出席状況 ・平常の学習活動 ・学習態度 ・作品類のできばえ ・提出物 ・自己評価 等	・安全作業への留意 ・作業内容における用具類の選択	・被服製作における創意工夫やアイデア	・被服製作における工程の理解 ・技術の応用

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。(例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙)

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名	服飾文化			教科名	家庭(生活情報科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

1 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
1	4	6	・オリエンテーション ・和服製作の基礎	・科目内容を理解する ・和服製作の基礎について理解する	・服飾文化の内容を理解する (関・思・知) ・用具の名称、基礎縫いの技術の習得 (関・思・技・知)	・行動観察 ・机間指導 ・質疑応答 ・基礎縫いの提出	・基礎縫い見本
	5	8	・甚平の製作	・甚平の製作の方法を理解する	・型紙の準備、裁断、印し付けを行う ・そでの作り方を学ぶ ・おくみの付け方を学ぶ (関・思・技・知)	・行動観察 ・机間指導 ・質疑応答 ・作品制作の取り組み状況確認	・作品見本 ・製作の手引き
	6	8			・背縫いの仕方を学ぶ ・ひもの作り方を学ぶ ・袖付け・わきの縫いの仕方を学ぶ (関・思・技・知)	・行動観察 ・机間指導 ・質疑応答 ・作品制作の取り組み状況確認 ・期末考査	
	7	6			・えり下ぐけの仕方を学ぶ ・えり先のしまつの仕方を学ぶ ・ひもの付け方を学ぶ ・仕上げ・たたみ方を学ぶ (関・思・技・知)	・行動観察 ・机間指導 ・質疑応答 ・作品制作の取り組み状況確認 ・作品提出	
1学期の評価方法			テスト20%+観点別評価(提出物60%、態度10%、出席10%)とする。 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				